

### 第3節 環境問題について語り合った社会科学習

#### 1 学習課題の明確化と学習内容の精選

人権・部落問題学習を始めとする人間としての生き方を問う学習においては、その単元や1時間の授業を学習者に分かる、しかも、じっくりと考え主体的に学習者が討論をし、その学習内容を追究していく授業展開にしていくためには、できるだけ学習課題を明確にするとともに、学習内容を精選し、全体を構造的に捉えるようにしておくことが必要である。授業者があまりにも多くの学習課題や学習内容を持ち過ぎると、学習の焦点がぼけるばかりでなく、知識注入の授業に走ってしまうことになりかねない。できるだけ学習課題をしぼり、学習内容を精選することによって、学習者の論理を大切に学習を展開していくようにしたいと考える。

また、学習課題の明確化と学習内容の精選は、別々のものとして考えずに構造的に捉えることが大切である。構造的に捉えるということは、まず単元なり、1時間の授業で学習したい中心概念を明確にすることから始まる。すなわち、単元や1時間の学習で最も重要で、学習者にこのことだけは徹底的に討論して、主体的に追究させたいという総括的概念を明らかにするということである。この中心概念が曖昧であると、学習内容や素材までが漠然としてしまい、何を学習しているのか、どの事実を通して課題を追究しているのか分からない授業に陥ってしまう。学習者の論理を大切に、学習者の生活の事実を通して、個々人の生き方と重ね、学習を展開していくために、この中心概念をはっきりと捉えることがどうしても必要である。

また、中心概念が明確になった後は、この中心概念をより具体的にした内容を選択し、位置づける必要がある。中心概念は、社会的事実や事象をいくつか統合したものであり、その表現もやや抽象的なものになる。この抽象的な概念を分析し、できるだけ具体化を図って最低限必要な学習内容（基本的事項と要素）を選び出すのである。

このように、単元や1時間の授業における学習課題を明確にし、それに基づいた学習内容の精選を図り、その構造化を図ることが、自らの人間としての生き方を問う学習を支える一つの条件であると考えられる。

#### 2 課題意識と討論の重要性

学習者が学習課題に意欲を持ち、生き生きと主体的に課題を追究していくためには、学習者自身が課題意識を持ち、学習者の思考の道筋に合わせた学習過程を構成する必要がある。こうした学習者の主体的な追究を促す学習過程による学習の積み上げによって、学習者は自らの生き方に関わる多くの社会的知識や経験を得ると共に、観察力、思考力など社会的能力を身につけ、人間尊重の社会を築いていこうとする主体性を確立していくと考える。

授業者はややもすると、教科書読解的な指導の流れを考えたり、知識注入型の指導過程を構成したりすることがある。あるいは、授業者の思考の筋道で学習過程を構成することがあるが、こうした学習過程で人権・部落問題学習を始めとする自己の生き方に関わる学習をいくら積み上げても、社会的能力の育成を図ることはできないし、問題解決への主体性も確立できない。

学習者の人間としての生き方を問う学習への意欲を引き出し、主体的な追究をさせるための学習過程を構成する場合、特に留意しなければならないことは、まず、学習者に課題意識を持たせるということである。今日は何の学習をするのか、どんな課題を追究するために学習をするのかという課題意識を学習者が持ったとき、主体的追究はスタートする。

課題意識なしに、人権・部落問題を始めとする個々の生き方が問われる学習での学習者の主体的追究は成立しない。そのためには日常的に人間が大切にされる社会を創造していく問いかけを丹念に行い、一人一人の学習者に対して、人権・部落問題を始めとする様々な問題への課題意識を持たせる人間的つながりが重視される。

人権・部落問題を始めとする人間としての生き方が問われる学習は、日常の豊かな人間関係に支えられた討論が成立しなければ学習の効果はない。そのために、学習者相互の関係性が不可欠である。そんな関係性に支えられて課題意識を持った学習者は、問題解決への道筋を追究していこうとする意欲を持ち、生き生きとした討論による学習を創造することになると考える。

### 3 学習者による相互感化

目標が達成される学習は、授業者による指導だけで創造されるものではなく、学習者相互による感化が重要な要素となる。学習者は、互いの人権を尊重し、差別問題を始めとする様々な問題を解決するという共通の目標（課題）を持ち、その課題解決に向かって学習を展開していく。しかし、その解決の方法は必ずしも一定ではなく、一人一人の学習者の持っている社会的知識や、それぞれの学習者が体験してきた事実や、それらに基づいて進める思考の筋道にかなりの相違があるのは当然のことである。

学習者は、こうした自分の持っている知識や経験、思考の道筋を手がかりとして追究していくわけであるが、追究の過程における討論で、他者の様々な感じ方や考え方を耳にし、目で見るとある。そのとき初めて接する新しい情報もあり、また違った思考の筋道もあって、それぞれの学習者は、自分の持っている知識や思考の仕方を改めて見直し、よいと思われるものは、自分の中に取り入れ、自分の考え方や追究の仕方を修正していくこともある。同時に、ものの見方や考え方には、様々なものがあることに気づき、一面的な見方・考え方から、多面的な見方・考え方をすることの必要性を理解するようになり、視野が広がってくる。

人間としての生き方を問う学習の展開にあたって、授業者の適切な指導が必要なことはいうまでもないことであるが、こうした学習者による相互感化が、実は社会的なものの見方や追究力を育てるうえで大きな力となり、学習者の内面を大きく揺さぶり、その人権感覚を磨いていくことにもつながっていくのである。

したがって、人間としての生き方を問う学習の展開にあたっては、授業者が自分の意図した指導のねらいに基づいて強引に授業者の敷いた指導過程のレールを走らせるのではなく、学習者に自由に話し合わせることが大切である。価値誘導型の指導ではなく、あくまでも学習者相互のやり取りの中で学習者自らが、選択し、決断し、意思決定を行う授業展開でなければ、その学習は価値の注

入になり形骸化してしまう。

ここで目指される授業展開は、社会的事実や事象に基づいて、学習者が様々な討論を展開していく学習である。しかし、その討論の内容は、試行錯誤し、一見無駄が多く、時間を多く費やすようにみえる。だが、学習者は、こうした討論を通して試行錯誤しながらも、実は、この討論は学習者による相互感化のはたらきをし、一人一人の学習者に、新しい情報や、違った角度からのものの方を与え、学習者の見方・考え方をより確かなものにすると共に、追究力を強めることになる。

授業者は、結論に迫ることを急がず、学習者の話し合いに十分時間をとり、学習者による相互感化の力を活用することが、人権・部落問題を始めとする人間としての生き方が問われる学習を充実させていくことにつながるのである。

#### 4 授業者が自分と問題の関わりを問い直すこと

「いつ、どこで、誰がしても同じ授業」など、果たして存在するだろうか。人権学習に限らず、どのような授業においても、「教材をどのように理解し、ねらいを設定するのか、学習者の実態をどのように理解し、その上で教材との出会いをどのように作り出していくのか」という観点から授業は設計されていくのであって、「授業は、個別の学級によって、個別の学習者の実態によって、当然変わってくるもの」と考える。「すばらしい」といわれる授業実践は限りなくあるし、その授業の実践記録も数多く出版されている。

しかし、その授業記録を全部頭に入れて、そっくりそのまま学習者に発問して、同じすばらしい授業ができるかといえば、学習者が同じように学ぶことなどあり得ない。一つの授業は、ある一定の時間と空間と学習者と授業者の間で行われる一過性のドラマである。あなたのクラスでできた授業が、私のクラスでできるとは限らない。もちろん、様々な人々によって提案された授業実践を学ぶ努力を重ねていくことは必要であるが、それと共に、その授業実践を自分なりに理解し受け止め、自分自身で再構築していくことがさらに重要なのだと考える。

特に、環境問題や人権問題についての学習において問われていることは、「何をねらいとして学習を進めてきたか」である。

学習のねらいが単なる「環境問題や人権問題についての知識の伝達」だけであるならともかく、学習者が「価値や生き方を学んでいく」ことをめざすならば、いつ、どこで、誰がしても同じ授業などというパターン化された学習などあり得ないし、そうしたものを安易に求めてきた、また求めようとする姿勢の問い直しこそ、今、教育の場に問われていく。学習者に「問題と自分との関わり」を考えさせたいと思うなら、何よりも授業者本人と問題との関わりを問い直すことから出発しなければならないのである。

ここでは、そのような視点で取り組んだ中学校社会科公民的分野「地球規模となった環境問題」の学習のまとめとして討論によって実施された授業記録を掲載する。

## 【授業記録】社会科公民的分野「地球的規模となった環境問題」

主 題 「小さな個人として自分にできること」

－公害問題・環境問題が訴えるものとは－

1999年11月19日(木) 第4校時

徳島県 板野中学校3年A組

授業者 森 口 健 司

### 1 人間が人間として存在していく地球そのものが問われ続けていく問題

T1: 日本の国は高度経済成長と言われた時代、特に1950年代、急速に工業が発達していく中で、様々な公害問題が起こっています。その現実を象徴する水俣病にその幼い生命がむごい状況で奪われていった坂本真由美ちゃんの資料を紹介したけど、この公害問題や環境問題は、人類が存在していくことができるかという突きつけを私たちに問う非常に深刻な問題となっています。まさに人間が人間として存在していく地球そのものが問われ続けていく問題として、今21世紀は環境と人権、共生の世紀と言われ続けています。そして、この環境問題は日本の国、一国の問題じゃなくて地球全体の問題として世界中の大きな課題となっています。国際間で「地球サミット」という取り組みが本当に深刻な状況を訴え、今環境を保全していくことが国際社会の重要な課題となっています。21世紀を生きる私たちにとって環境の問題は、鋭く私たちの生き方そのものを問いただしていく最も深刻な問題となっています。この地球全体の問題として環境の問題を考えると、私たち個人は本当に小さな個人です。その小さな個人である私たち一人一人に問われていることを、地球的規模の問題となっている公害・環境の問題を通してまとめてもらいました。そのみんな自身がレポートしてきた考えを今日みんなで語り合って、環境問題を自分自身の生き方の問題として考えていく機会にしたいと思います。みんなですごく素敵な社会を創造していく学習ですから、みんな自身の考えをみんな自身の言葉で生き生きと語ってくれればと思います。

永峰(女)自分たちが住みやすくするためや便利にするために、いろんなものを開発したりしてきたけど、それによっていろんなものが壊されてきて、逆に住みにくくなってきている気がする。だからしっかりとしまりをつくらなければいけないと思う。水俣病などの水質汚濁が訴えているように、何もかもしたい放題で、有害なものを垂れ流したり捨てていくことが、決して起こらないようにしていく必要があると思う。住みやすくなるのなら、すべての人が住みやすくなるなくては意味がないと思う。

環境の問題は、森林とかを伐採しているけど、森林というのは、この地球の中で一番大切なものと思う。だからもっと大切にしていかなあかんと思う。川や海も汚れていると思う。このことは一人一人が環境について考え、心がけて行動していくことによって、少しずつ変わっていくと思う。私も含めて、もっと自然のものを大事に思う必要があると思う。公害問題については、水俣病のことが頭に浮かんでくるけど、すごくむごいことだと思うし、腹が立つことだと思う。工場排水のせいで魚が汚染され、それを食べた人が苦しんで死んでしまったり、生きていても差別されてしまう。

私たちはいろんな勉強をして何がおかしいのかをしっかりと知らなあかんと思う。本当のことを知らないから差別をしてしまう。住みやすいところをつくるには一番に一人一人のことを考える必要があると思う。

### 2 自然のバランスを崩して、自らの手で自らの首を絞めている

木宮(女)水俣病は工場側が排水に有害なものを含んでいるという認識があったのに、工場排水を垂れ流して、周辺の魚は汚染され、その魚を食べたたくさんの人が水俣病にかかりました。これこそ、住民を苦しめ、死に至らせた最悪の事件でないかと思います。それで水俣病の症状から周りの人に差別され、苦しみ続けた人は、人権まで侵されていると思います。被害者の人の人生を無茶苦茶にしていると思います。賠償金が支払われても、やっぱりその苦しみは癒されないし、罪を償いきることはできないと思います。

私たち人間は、自分たちの私欲のために自然のバランスを崩して、自らの手で自らの首を絞めていると思います。自分の幸福のために不幸になる人がいてはいけないと思います。幸福や欲求のためにすべての生物

が共有している地球を侵してはいけないし、公害や環境問題が地球の赤信号だというメッセージを受けて、私たちがどう対処していくかが、これからの地球にとっても大切なことだと思います。

楠本(男)四大公害訴訟が起こってから、確かに賠償とかを求めて、お金で解決するからあまりいい気はしないけど、俺らが今環境の問題についてできることと言ったら、一人一人の力は弱いし、小さなことかもしれないけど、一人一人がいなかったらできないことだから、環境の問題に関心を持って行動していくことができるようにならなければいけないと思う。

高橋(女)環境の問題について自分に問われていることって考えたら、まず自分の生活の中で、ゴミのこととかが思い浮かぶよ。私の部屋には、ゴミ箱が1個しかなくて、ジュース飲んでも、缶はそのまま入れるし、ティッシュも入れるし、プリントも入れるし、燃えるゴミの日とかあって、そのゴミを大きな袋に入れるときも、その中に缶が入っていても、1個か2個やけんいいわって思って、そのまま入れたりするし、お母さんの手伝いをしていても、燃えるゴミとかその他のゴミとかがいっぱいあって、これどっちだろうと思ったときにわからんけん、間違っって分別しているときもあって、そういうのが一人だったらまだいいけど、いっぱいあると思うし、曖昧にしていることをなくして、やっぱりもっとしっかりといるんなことを知らなあかんと思う。

T2: この環境問題を考えていくということは、まさに私たちの生活そのものを点検していくことにつながっていくと思う。それで自分自身のことを考えたら、言っていることと、やっていることが違う自分が見えてきて、心苦しいところがいっぱいあるけど、みんなでそのことを前向きに点検していくことが、すごく大事なんだと思う。今の意見を通して、みんな自身のことも考えてみようか。

### 3 自分だけがよかったらという甘えがある

明松(男)さっき意見として出てきた水俣病のことやけど、小学校5年の時にビデオとかで見て、実際に猫が水銀に冒されて踊っている映像とかを見て、こんなん普通でないなあと思って、すごく身体に害を与えとったと思ったし、人間の醜さというか、自分だけがよかったらという気持ちが工場にあっただろうし、今の環境の問題にもつながるし、この自分だけがよかったらという甘えがあって、僕ら自身で地球とかを汚していると思います。

水俣病の話に戻るけど、その工場の中で有機水銀がどのようなもので、そのことが人間にどのような状況を引き出していかをわかっていったのに、有機水銀を垂れ流し続けたということはお金を払ってすむような話でないだろう。今スーパーとかに行ってもビニルとか多いし、どなにかしてビニル類を少なくしていかなあかんと思う。ゴミが増えたら地球も汚れるし、環境も汚染されるし、家庭でもゴミの分別をきちんとして、使えるものは捨てないで、そのものを大事にして、リサイクルできるものはして、みんながそれに気づいていけたらよくなると思う。

亀井(男)さっき無駄をなくして使えるものは使おうと言っていたけど、本当にそうだと思う。今空き缶のリサイクルとかがあるけど、実際みんながリサイクルをしていくという意識で、ゴミ箱にしっかりと分別していかなかったら、リサイクルされないままに終わってしまう。道端にたくさんのゴミが落ちている現実を考えていかなあかんと思う。

### 4 社会が進歩してきた中で見直さないかんことって、他にもいっぱいあると思う

新名(女)今も意見として出たんやけど、一人一人の問題と言いながら、いろんな課題があると思うんです。板野町でもゴミの分別収集が始まって、ゴミをみんなで分別していかなあかんのに、私たち自身が給食の時とかでも、残ったゴミを分別していかなあかんのに、たぶんきちんと分別ができてないと思うんよ。だからそのところとかを学校とかできちんとしていかなあかんと思うんですよ。

私が小さい頃は、ゴミの分別とかはなくて、空き缶とかは別にしているけど、紙やビニルはいっしょに捨てていたんです。最近、環境問題のことが大きな問題となって、ビニルを燃えないゴミとして、燃えるゴミと

分けなければならなくなつたのに、その習慣がなかなかできなくて、給食の時も燃えるゴミ用のゴミ箱の中にパンやジャムの袋が入っていることって多いと思うんです。さっき一人一人がしっかりと分別していかんあかんと言っていたけど、私たちができるのは給食や掃除の時のゴミの分別だから、そのことをみんなでしっかりとやっていきましょう。

それと環境問題には、水俣病とかもあると思うんやけど、私たち中学生にできる一番は、ゴミ問題のこと  
で、そのことをしっかりと考えていくことが、私たちの生き方を豊かにしていくと思うんです。スーパーの  
話とかが出たけど、昔は豆腐屋さんは、バケツみたいなものを持って行って、直接豆腐をそれに入れてもら  
って、豆腐を買っていたと聞いたことがあるけど、それってすごくいいなあと思うんよ。全然ゴミが出ない  
し、何回も使えるし、そんな時代に戻ることが必要な気がするんよ。今、社会が進歩してきた中で見直さな  
いかんことって、他にもいっぱいあると思うし、そのことをやっていかなかったら、今の社会は大きな壁に  
ぶつかってどうにもならなくなると思う。

## 5 「僕一人ぐらいいけるわ」っていう気持ちが一人一人の行動をいかにげんなものにしていく

二條(男)僕が思うには、みんな頭の中ではゴミの問題について、分別収集をしなければいけないとわかっていると思うし、リサイクルも絶対に必要なことってわかっていると思います。だけど、周りにできていない人がいたら、「僕一人ぐらいいけるわ」っていう気持ちがみんな出てきて、一人一人の行動をいかにげんなものにしていくと思います。これは今の社会の様々なことにつながっていくけど、例えば、苦勞して手間をかけて頑張っている人がいて、周りにやりたい放題で何も努力しようとしなくていい人がいたら、「正直者が馬鹿を見る」という雰囲気になって、責任を果たしている人もしんどくなると思う。公害問題とかにも関心を持っていくことも必要だけど、まず僕らの最も身近なところから解決していくことが大切だと思う。僕が大切にしていかなければならないのは、僕の家の中のゴミ問題であり、この教室の中でのゴミの分別の問題だと思うんです。今回環境問題や公害問題についてみんなで考えてきたことによって、みんな一人一人がこの学習を通して、自分自身のことをだいたい見直すことができたと思うんです。特にこの問題は人任せになったり、他人に期待するのではなく、自分の生活をしっかりとした実践につなげていくことが、結論だと思うし、自分の周りがどんな状況でも、そこから自分の生き方っていうものを考えていくことが、公害問題や環境問題を学習した意味だと思います。

田尾(女)この学習を通して、「地球がやばい」ということを考えてきたけど、いよいよやばいという状態にならなかつたら気づかないところがある。でもそういうながらも、まだ甘い心があつていかにげんに行動していく弱さがあるけど、この学習をした意味を考えながら、みんなの発言を心に刻んで行動できる人間になりたいと思います。

## 6 地球は自分の家、自分の家がなくなったら、寝ることもできんし、生活そのものが消えていく

明松(男)昔はどこかに出かけるというと歩いていくことが多かったけど、今はほとんどの人が車に乗っているだろう。みんながどんどん車に乗ることも排気ガスで地球を汚していくことにつながってきたと思うんよ。今、人類が便利さを追求していく中で、日本の経済は上昇していったけど、逆効果になって大気が汚染されたり、地球が温暖化して、様々な問題を引き起こしているだろう。便利さっていうのは、本当にうれしいこと  
だけど、今の便利さっていうのは限度を超えていると思うんよ。ちょっとしたらできることも、より簡単に  
できるようにということで、いろいろ物が売れるということも大事なことで、やっぱり経済よりも自分  
たちが住んでいる地球の方が大切だろう。みんなが使っている地球だから、みんなでよくしていかなあかん  
と思う。ほんまみんな楽を求め過ぎて、いろんな物をつくり過ぎだと思う。地球は自分の家だろう。自分  
の家がなくなったら、寝ることもできんし、生活そのものが消えていく。そうなったら人間の存在もなくなっ  
て、経済も何も関係なしで、大変な状況になっていく。そのことはみんなわかっているんだから、もっとみ  
んなが自分自身に問いかけ、生き方そのものを変えていくことが必要だと思う。

T3: 地球という我々の家がゴミだらけになっているという現実。燃えるゴミ、燃えないゴミ、いろんな形でゴミは出る。燃えるゴミは燃やしても灰は出る。燃えないゴミは処理され、地球のどこかにいっぱいたまっていつている。私たちの家がゴミだらけになっているという自覚、そんな意識改革が必要だと思うけど、今の意見についてみんなの考えを出してほしい。

## 7 具体的に自分の生活の中で見えてこないから、ついつい無関心になってしまう

永峰(女)便利になり過ぎていろんな問題が起こってきたり、車とかがものすごく増えてきたっていう意見があったけど、実際私たちは生まれたときから便利な状態で生活してきたし、車がいっぱいあるのが当たり前になっているし、この便利な生活のまま暮らしていきたいと思う。今地球は空気が汚れていきよると言われても、直接肌で感じないし、水にしてもどこまで汚れているのかわからんところがある。ゴミを分別せなあかんっていうのはわかるけど、空き缶とかちゃんと捨てる場所があったらそのときはちゃんと捨てるけど、車の中でジュースとかを飲んで飲み終わったら外に捨ててしまうこともあるし、飲み終わった空き缶をゴミ箱に捨てようと思っても、ゴミ箱まで遠かったら置きっぱなしにしているときもある。それもこれもいかにことって分かっているし、環境がいっぱい破壊されとるということもわかっているんだけど、そのことが具体的に自分の生活の中で見えてこないから、ついつい無関心になって今まで何も変わっていかなくて、いかにげんな行動ばかりしてきたと思うんよ。

燃えないゴミがいっぱいたまっているって言っても、そのゴミを実際に見たことないし、一番身近なことなのに、「環境の問題について考えていこう」というこの授業以外でほとんど考えなかったことで、実際の生活の中でこれは本当に生かしていかなあかんことなのに、楽な方に流れてしまう自分がある。

給食のことについても、これは燃えるのか燃えないのか分からなかったり、ビニルも燃やしたら燃えるだろうって思ってしまうことがあったりで、もついろいろなことを知らなあかんと思う。

新名(女)私もやっぱりわからんのよ。はっきり言って、ゴミの問題って、だれにも習ってないんですよ。ただ私の家では、白いゴミ袋に紙とかの燃えるゴミを入れて、黄色の方にはビニルを入れているけど、たぶん家によって違うと思うんよ。そうしたら、またいろんなゴミがゴミ処理場でいっしょになったら、有毒な物が出てくるようになっていくと思うんよ。

ゴミの分別でゴミの回収車が、燃えるゴミと燃えないゴミをいっしょに入れているのを見たことがあるっていうのを聞いたことがあって、それってどういうことなんだろうと思ったことがあるし、現実的に最終のところまで見れてないから、自分に実感がないというか、私たちの中にもっと問題意識を持つためにも、もついろいろなことを知っていかなかったら、環境を守っていくことはできないと思います。

さっき明松君が環境は守っていかなあかんという意見を出してくれたけど、日本というのは幸せなところがあって、ある程度発展してきたし、そこで環境問題のこととかを昔、水俣病とかで間違いがあったから、言えると思うんやけど、今から発展している国とかだったら、日本に追いつこうとして環境よりも便利さを求めていくと思うんですよ。

これは一人一人の人間にも言えることであって、永峰さんが言ったように、生まれたときからあるもので、便利だからというのもあって迷うことなんですけど、今思うのは一つしかない地球だから、そこをしっかりと守っていかなあかんと思ひます。

## 8 環境問題に対する無知が平気で環境を破壊していく状況をつくってしまう

二條(男)その環境の問題っていうのは、人権の問題とすごく似ていて、例えば、社会で「人権」「人権」って言われているけど、結局のところ、人権が尊重されていないっていう社会だし、環境にしても「環境」「環境」って言っているけど、僕らの生活、自分の生活を見たら、いかにげんなところがいっぱいあって問題がいっぱいあると思ひます。環境の問題にしても人権の問題にしても社会全体の問題ではあるけど、国民一人一人が環境問題について関心を持たなければ変わらないと思ひし、関心を持たないでいたら、それぞれの企業が自

分の利益だけを考えてしまって、水俣病のような問題を引き起こしていくことになりかねないと思います。

確かに今の僕たちの生活の中で、水や空気が汚れているという実感がなかなかわいてこないと思うけど、実感がわからない、問題意識がないというのは、厳しい言い方かもしれないけど、無知な人間が平気で差別をするように、環境問題に対する無知が平気で環境を破壊していく状況をつくってしまうことになるんだと思います。

なかなか環境問題そのものの重要性を実感する体験は少ないかもしれないけど、僕らはもっというんなことを知っていかなあかんと思うし、確かに実感はわかなくても、学ぶことで気づいていけたらいいと思う。今まで知らなくても、今、この環境問題や公害問題を学んでいるわけだから、ここから自分の生活を学ぶことを通して、どうしていくかを考えていかなあかんと思います。

実際今の生活を昔の生活に戻せって言ったら、たぶん戻ることはないだろうし、だから今、戻せないんだったら、どうするかを考える必要があると思います。また、高度経済成長の中で日本は経済至上主義で、水俣病などの公害を引き起こしてきたように、先進工業国に比べて、日本は福祉とか人権とか、この環境問題について、相当遅れているから、遅れているからこそ、国民一人一人が考えていかなあかんと思います。僕ら一人一人の力は小さいものだけど、まず、環境問題に関心を持って、自分の家の中のゴミのことから正していきたいと思います。

#### 9 今まで常識だと思っていたことが、非常識だったということに気づく

T4: みんなのいろいろな考えや思いを聞いたり、その中で思うことを言う。そんな語り合いの中で、人間の意識というのは揺さぶられたり、様々なことに気づき、自分自身の考えが深まっています。その中で今まで常識だと思っていたことが、非常識だったということに気づくこともあるだろうし、そこに一人一人の問題意識が生まれていきます。例えば、部落問題についてみんなで考えてきたから、それが重要な問題と思えるようになってきたように、環境問題もしっかりと考え、学んでいくことによって、これは私たちの生命、人類の存在に関わる重大な問題であるという自覚が生まれ、その中で一人一人に問われているものが段々と見えていきます。いろいろな意見を出してくれた仲間の考えや思いを受けてみんなの考えをつなげてください。

明松(男)二條君が言ってくれたけど、日本は経済のことばかりで、1994年頃にやっと人権のことが大きなテーマになって、「子どもの権利条約」が認められてきたところで、世界中が大きな課題として掲げてきた人権問題に対して、日本は認識が甘かったと思います。実際、経済のこと、自分の利益のことばかり考えて、人間が人間を大切にしていくという、人間社会の中で最も大切なことをいかけんしてきたことは、日本にとって本当に恥ずかしいことだと思います。今僕らはそんな現実を知った上で、今どうしたらいいのかを考え、行動していくことが問われていると思います。ジュースのペットボトルにしても、そのペットボトルを販売している会社はリサイクルという文字を書いて、環境問題に取り組もうとする姿勢が今まで以上に出ていると思うし、みんながそれぞれの立場でどのようなことをしていかなければならないかを考えていったら、ゴミをどこにでも捨てるということがなくなるし、みんなで分別もできるようになると思います。大気汚染とか大きな問題がまだまだあって、分からないところもあるけど、僕らにできることってというのは、ゴミをできるだけ出さないようにして、リサイクルとゴミの収集をきちんとすることが、最も大きな課題だと思いません。

大西(女)私もリサイクルとかをたくさんしたらいいと思って、私の近所のスーパーも肉とか魚とかの入っていたパックをリサイクルのために集めるコーナーがあるので、それに入れに行っています。今はやめてしまったけど、前は牛乳パックとかを束にして、役場のリサイクルのコーナーに持って行っていました。でも最近、そのことをやめてしまっているの、そのことをまたやったらいいと思うので、家でこの話をしたいと思います。この問題を考えていく上で、私は自分だけがよかったらいいという思いを、自分からなくしていかなあかんと思います。

## 10 自分専用のバッグを持っていったら、ゴミが本当に少なくなる

安芸(男)今は、自動販売機って缶だろう。あれって前はビンだったと思うんよ。もう一回あの缶をビンに換えたら全然違うと思うんよ。空き缶だったらすぐに捨てるけど、ビンになったらリサイクルが常識になると思うんよ。それとスーパーマーケットとかに行ったら、袋がついてくるだろう。それもみんなゴミになっているし、みんなが自分専用のバッグを持っていったら、ゴミが本当に少なくなると思う。

T5: 今の意見についてだけど、みんなは買い物かごというものを知らんでしょう。豆腐を売りに来るおっちゃんがいる、ざるのような容器を持って行って、直接豆腐を買っていたという話をしてくれたけど、何年前は、買い物に行くときはみんな買い物かごを持っていたんです。もう一回、ゴミの少なかったそんな時代の良さを考えていく必要があると思う。

それとみんなコカコーラのビンを知っていますか。先生の小さい頃は、コカコーラがとても高級な飲み物で、コカコーラのビンに特別な思いがあった。コカコーラの缶はほとんどゴミになっているけど、コカコーラのビンは何十回もリサイクルされたらと思う。これは牛乳も全く同じで、以前はほとんどがビンで売られていた。牛乳のパックをリサイクルするには手間がかかって、そのままゴミにしてしまう人が多いけど、牛乳ビンが何十回もリサイクルされたことを考えると、私たちは今一度生活そのものを見つめ直す必要があると思う。便利さの中で生きてきた私たちの生活だけど、便利さの中ですごく大切なものを見失うことがないように、みんなでいちいちゴミを分別していくめんどくささを実行していき、そんな一つ一つの行動で平気でゴミを出し、ゴミを捨ててしまう私たちの意識改革ができればと思う。

木内(女)ゴミとかを分別するようになったんやけど、やっぱりどうして分別していくことが必要なのかを理解して、どういうふうに分別されているかというのも理解していかなければ、責任を持って分別をしていくことができなくなると思う。私やって、給食のゴミを燃えるゴミ、燃えないゴミ、どっちに入れるか考えんと入れよるし、それが何でそうしているか分かっていたら、「ああ、こうせなあかんのや」って思えるし、できていこうから、みんなですういところを認識して、ゴミのことを理解していかなあかんと思う。

藤川(女)家でも、燃えるゴミと燃えないゴミを分けているけど、めんどくさいから、全部白いゴミ袋(燃えるゴミ)に入れよって、お父さんはそういうことにすごく几帳面だから、なんかなすぐ怒るんよ。それでちゃんとせなあかんああって思うんやけど、なかなかできんことが多い。でもこの前、環境について考える授業をしたとき、給食の後で、ちゃんと黄色い袋(燃えないゴミ)に分別したんやけど、みんな大きなゴミ箱(燃えるゴミ)の方が入れやすいからだろうけど、大きいゴミ箱の方にけっこう燃えないゴミが入っとたんよ。そういうことをみんなですうていけたら、この授業をした意味があると思う。

明松(男)先生、先生が小さい頃は川の水、きれいだったんやろう。今の僕らみたいにTVゲームとかなかったけん、ほとんど外で遊びよったんやろう。僕のばあちゃんの家近くに川があって、その川がすごく汚くなっているのを見て、母さんが昔は自然の豊かさがいっぱいあったのに、昔のようにきれいな川になったらいいのって言ったことがあったんよ。

TVとかでアフリカとかブラジルとかの人を見ていたら、あの人たちはあんまり物を持ってないけど、自然の大切さをみんなですう覚して、みんなですう自然を守って、自分たちの自然に対する誇りがちゃんとできていると思うんよ。

日本人は自分で動くのが嫌やから、何でも人にやってもらわな損という感じで人や物、機械に頼りっぱなしと思うんよ。実際日本人は、便利になっている代わりに、人間としてのたくましさとかがなくなって、人間として弱くなっていると思うんよ。

自然の中で思い切り遊んだり、もっともっと身体動かして、自分にできることをみんなですう思いっきりやっていくようにしていかなんだら、最後には人間のすることを全部してくれるロボットが出てきて、人間としてすごい大切なものがなくなっていくと思う。今、いろんな物や機械の便利さに頼っている生活を変えてい

かなあかんと思う。

## 11 たった10年やそこらで、ものすごく変わってきた部分がある

木宮(女)私は小さい頃に山とかに行き、木を削ったりしよったんよ。川とかもきれかったのに、今は汚くて、臭いとかもするし、それにメダカもおらんよ。私ってまだ15年しか生きていないのに、たった10年やそこらで、ものすごく変わってきた部分があると思う。環境、環境といいながら、いろんなものが変わっていく。その変化が怖い。

河野(男)みんないろいろ言っているけど、ポイ捨てとかすると思うんよ。僕が前に見て一番ひどいって思ったんは、塾の帰りに男の人が自転車に乗りながらたばこを吸っていたことがあって、そのときその男の人が吸ったたばこを消してゴミ箱に捨てると思っていたのに、たばこの火がついたまま道端に捨てたことがあったんよ。でこれは車に乗っている人が、そのままたばこを捨てるということもあるけど、たばこで火事になってしまうこともあるだろうし、いろんなことを考えて、そんなことをする人がいないようにしていかなあかんし、明松君が言うように、身の回りからちゃんとしていかなあかんと思う。

新名(女)みんな意見を出してくれて、みんなでいろんな考えを出し合って考えていくことが、一人一人の行動力につながっていくんだなと思ったんです。ちょっと前に、TVでどこかの都会の人たちが、完璧な分別収集をめざして環境問題に取り組んでいる番組を見たことがあったんですけど、それが私たちの目指していくことだと思ったんです。それは各家庭で生ゴミを干して、紙の袋に入れて、それを全部時間をかけて土に返していくというものだったんです。それはすごいなあって思って、外国でも生ゴミを微生物に分解して活用しているというのがあるけど、そういうものを目指していきたいと思ったんです。

今私たちは便利なこと、手間をかけないことに慣れてしまっているという意見があるけど、それを地球の環境を守っていくという方向にならしていったら素晴らしいことだと思うんです。ゴミの分別もめんどくさいことかもしれないけど、その分別をしていくことで環境に対する意識が確かなものになっていくと思うし、今からでも自分を変えていかなあかんと思うんです。できることは小さいかもしれないけど、みんなで作ったら大きくなると思います。

## 12 ゴミを通して、環境の問題について考えていくことが大切だと思う

二條(男)僕らに問われていることは、環境に対する一つ一つの問題をしっかりと考えていくことも必要だけど、まず、一番ゴミが出てくる給食の時間のことや、自分の家の生活のことを見直していかなければ、今日僕らが話し合った環境のこともあまり意味のないものになるし、自分にできることっていうのを問うことが大切だと思うし、だから今日も給食があるし、自分の家に帰ってからもゴミを通して、環境の問題について考えていくことが大切だと思います。

T6:先生の住んでいる地区が昨年ゴミの分別収集のモデル地区に指定されて、ゴミの分別に1年間取り組んでいきました。そのモデル地区の取り組みがスタートしたとき、燃えないゴミ、燃えるゴミ、缶ビンペットボトルなどの資源ゴミが、いっかげんに出されるが多かった。ちょうど私はそのとき、隣の家の人と分別がなされていないゴミ袋をしっかりと分別し直すことがあった。そのときいろんなものが入れているゴミ袋に、人間のエゴ、人間のいっかげんさを感じながらも、ルールを守ることの重要性をしみじみと実感したんです。そして、そのことがきっかけとなって、みんなが全員で責任を持つ当番制がスタートします。

みんなが責任を持って行動すること、みんなが役割を果たすこと、みんながルールを守ること、それは本当に暮らしよい、みんながお互いを信頼し、みんながお互いを大切にしていける社会をつくっていくことにつながっていきます。一人一人が当たり前のことを当たり前にやっていく。それは環境が守られ、人間が人間として大切にされる豊かな社会を築いていくことにつながっていくと思うんです。そのために、一人一人が「今」「ここ」でできることからやっていきましょう。